

美里町立中央中学校 校内研修の概要

1 研究テーマ

論理的に思考し、豊かに表現する生徒の育成
～思考力、判断力、表現力の具現化を図る言語活動～

2 成果の概要

(1) 授業モデル

本校では、「把握」「思考」「表現」「定着」の4つの学習過程からなる授業モデルを採用している。全教科でこの流れを意識して一単位時間や一単元の授業実践を行った。

「思考」過程において、論理的思考を展開するための型・視点・例を示すことで、生徒は授業中に論理的な思考を試行し習得していく様子が見られた。

(2) プロットカードの活用

生徒に学習過程やポイント、考え方や表現方法の視点を視覚的に示すため、板書する際に用いるカードである。これによって、生徒は学習の見通しが持て、学習の流れを視覚的に確認するとともに、終末で本時の学習を振り返り理解を深めることができた。

(3) 「中央中学校言語活動一覧表」の活用による論理的思考法の習得

本校生徒に必要な言語の力を明確にした「言語活動一覧表」を作成し、昨年度から活用している。本表には9つの言語能力と39の言語活動がまとめている。

本年度は、論理的思考力の育成に重点化した研究を行うという観点で、言語活動一覧表から各教科の重点項目を抜粋して実践を行った。

例えば、国語科では「根拠や理由を明確にして、自分の意見を伝える力」「多様な考えや意見を踏まえて、自分の意見を伝える力」を重点事項にしており、その項目に対応する題材で実践を行った。数学科では、班での話し合いにおいて、表や式、グラフなどの数学的な表現を用いて、見いだした二つの数量が一次関数とみなせることを、根拠を明らかにして説明し伝え合う活動に取り組ませた。

これらの実践により、生徒が論理的思考を習得し習熟していく場面が見られるようになった。

(4) 音読暗唱タイム（毎朝8時10分から10分間）

聞き取りやすい速さ、声の大きさに気をつけ、ペアで練習した後、みんな一斉にその週の課題（古典冒頭文、漢詩、論語等）を声に出して唱える。金曜日には暗唱できるようにした。

自分の考えや意見を伝え合う活動に対する、苦手意識を克服することに役立っている。

(5) 職員研修

道徳・人権教育を重点的に推進し共感的で支持的な風土を育てることで、生徒の表現への意欲、有効感を持つようになるのではないかと考え、熊本県立教育センターから講師を招き次の2つを実施し、道徳の授業等に当たった。

- ・教育相談等におけるカウンセリングマインド、カウンセリングスキル研修
- ・道徳の時間をより充実させるために～指導展開を考えるワークショップ型研修

3 研究の成果

(1) 校内研究生徒質問紙調査から

互いの発言を最後まで聞く習慣を身に付けることで、発表者は聞いてもらえる安心感から表現への意欲と有効感を持つことが確認された（表1）。授業など学習の場で論理的に考えることができ、学校生活において表現への有効感を持つことができると、生徒は豊かな表現ができるようになることを確認した。

表1 互いの発言を最後まで聞くことに関わる意識 *肯定的評価ポイントで表示

質問項目	6月	12月
私のクラスは、お互いの発表をしっかりと聞くクラスだと思う。	59.8%	71.1%
私のクラスは、発表しやすい雰囲気がある。	26.4%	40.0%
私のクラスは、一人一人が自由に発言できる雰囲気がある。	29.9%	36.7%

また、表現することに対する意欲や表現への有効感が高まっており、論理的な思考を伴った豊かな表現ができるようになってきていることが分かる(表2)。

表2 豊かな表現に関わる意識 *肯定的評価ポイントで表示

質問項目	6月	12月
先生の話の中に、分からないところがあれば質問する。	24.1%	36.7%
自分の考えや意見を、具体的な例とあわせて発表できる。	24.1%	35.6%
グラフや図などから情報を読み取り、それを根拠にして自分の考えを発表する。	55.1%	66.7%

(2) 平成25年度熊本県学力調査の結果から

①教職員意識調査

* 中央中(評価尺度) % : 県平均%

- ア 授業内容を生徒が理解している (すべて+多く=) 77% : 67%
- イ 熊本型授業を実践している (いつも+概ね=) 100% : 81%
- ウ 思考力、表現力、問題解決能力を高める指導を…(おおく+概ね=) 100% : 78%
- エ 複数の資料を関連づけて考えを表現する活動を… (よく+概ね=) 88% : 69%
- オ ゆうチャレンジ結果を指導方法の工夫改善に生かす (十分+概ね=) 66% : 47%
- カ ゆうチャレンジを活用する(評価問題の開発) (十分+概ね=) 67% : 55%

②生徒意識調査

- ア 勉強は大切だと思う (とても+まあまあ=) 95% : 92%
- イ 授業以外で自分から進んで勉強している (とても+まあまあ=) 69% : 57%
- ウ 勉強が「おもしろい」「楽しい」と感じる (とても+まあまあ=) 68% : 58%
- エ 勉強で分からないとき、聞く調べる努力を… (とても+まあまあ=) 83% : 69%
- オ じっくりと考え問題解決をするのは楽しいか (とても+まあまあ=) 48% : 54%
- カ 学校がある日に授業時間以外で何時間学習するか (2時間以上=) 55% : 30%

③本校と県平均との定着率比較

5教科の知識・活用の定着率30項目中、平成24年度は15項目、平成25年度は24項目で県平均を上回った。なお、活用の定着率は7項目から14項目と増加している。

4 今後の課題

平成25年度県学力調査の結果から、本校生徒の学習意欲は高まっていることがわかる。7割の生徒が自ら進んで学習に取り組んでおり、勉強に対する好感度が高い。一方で、じっくり考えて問題解決することを楽しさを感じる生徒は半数以下にとどまり、家庭学習の時間が2時間未満である生徒は半数弱である。主体的に学習に取り組むための課題設定と家庭学習の充実が課題である。

本校テーマ研究においては県学力調査結果からも分かるように、生徒の変容を確認したものの十分満足できる成果が得られた訳ではない。論理的思考をともなった豊かな表現活動を、さらに充実させていくことは依然大きな課題である。中央中学校言語活動一覧表の活用による言語能力育成を継続し、より具体的な実践を行っていく必要がある。